

近畿地方整備局 九頭竜川ダム統合管理事務所
資 料 配 布

配 布	平成21年8月6日(木)
日 時	16時00分

件 名	真名川ダム湖内での水面変色について
-----	-------------------

概 要	<ul style="list-style-type: none">● 8月4日10時頃、真名川ダム湖において水面が赤褐色に変色していることを確認し、調査を実施しました。● 水面変色の原因は、ペリディニウム・ビペス、ホシガタケイソウ及びサヤツナギを優占とするプランクトンの増殖による淡水赤潮でした。● なお、毒性はなく、人体に影響を及ぼすものではありません。
-----	---

取り扱い	_____
------	-------

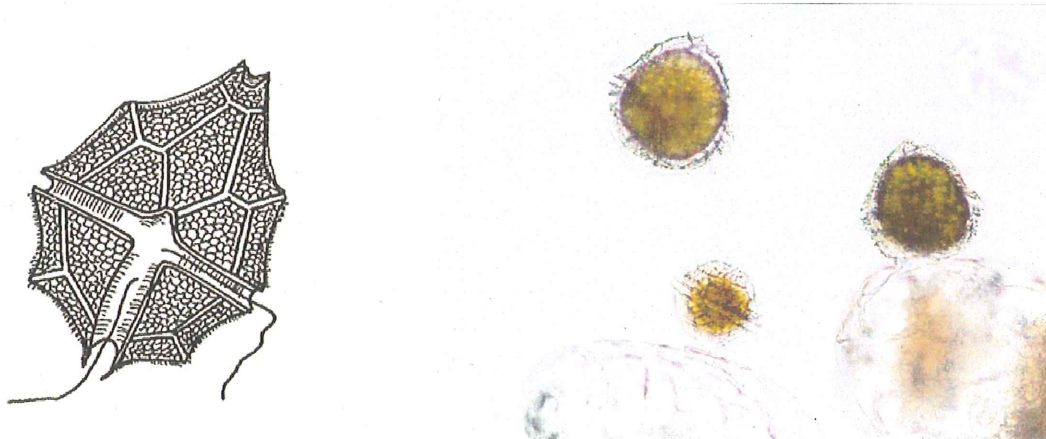
配布場所	福井県県政記者クラブ 大野市 情報広報課
------	-------------------------

お問い合わせ先
近畿地方整備局 九頭竜川ダム統合管理事務所
管理課長 荒木 道男 (内線331)
電話 0779-(66)5300 (代)

真名川ダム湖内での水面変色について (第1報)

- 8月4日10時頃、真名川ダム管理支所職員が、ダム湖の巡視中に水面が赤褐色に変色しているのを発見し、原因を特定するために調査を実施しました。
- 水面変色箇所は「持籠谷^{もっかだに}」、「仙扇谷^{せんおうだに}」及び「若生子大橋付近」の3地点で変色を確認しました。
- 変色の原因を分析した結果、ペリディニウム・ビペス^(*)、ホシガタケイソウ^(*)及びサヤツナギ^(*)を優占とするプランクトンの増殖による淡水赤潮でした。
- これらの種には毒性はなく、人体に影響を及ぼすものではありません。
- 現在(8/6)も若生子大橋付近で幅50m、延長700mの赤褐色の変色を確認しています。

*1: 「ペリジニウム ビペス」は、西日本の湖や池に広く分布し、春から夏にかけて増殖して赤褐色ないし黄褐色の淡水赤潮を形成することがあります。細胞は卵形、洋梨形又は球形で、長さ28~40 μm ・幅25~37 μm で上殻と下殻の大きさはほぼ等しい。この種は、日中は表層近くに集積する性質があり、ダム上流端付近では河川流入水の潜り込みによる表水の逆流や谷風により異常集積することがあります。



ペリジニウムビペス

*2：ホシガタケイソウは、全国各地の湖沼に広く分布する普通種で、星形あるいは稀にジグザグ状の群体を形成します。細胞は長さ40～130 μm ・幅1～2 μm 、条線は10 μm に25～28本で、真名川ダムにおいて最も代表的なプランクトンの一種です。

*3：サヤツナギは、全国各地の池沼・湖水などいたるところの水域に普通にみられ、被殻が樹枝状に連なった群体を形成します。被殻は長さ50～120 μm ・直径6～10 μm の円筒形で側縁に3～7個の波形があります。

8/4 時点発生状況

